

(補足説明 - 2)

景観の創出と保全、誘導のポイント

かつての小笠原の街並みは、タマナの並木などの南洋の樹木に覆われた戦前の風景や米軍統治時代の芝生の中の低層な木造住宅が点在する開放的な風景など、小笠原特有の景観が保たれていたと残された写真等から感じることができるだろう。しかし、復興期を経た現在では、一部にそのような風景や場所が残るものの、街並み全体として、古い写真から感じることができるような特徴をつかむことが難しい景観となってしまった。また、別の一部には周辺の自然と不調和な色彩の建物等もあり、現在の街並みが小笠原にふさわしい景観をもった街並みだとするのは、的を射た表現とは言い難い。

一方、小笠原らしい景観を示す指標が示されないなかで形成されてきた街並みに指標を与え、小笠原にふさわしい景観を創造していく源は、そこに暮らす人々の、あるいは、そこに訪れる人々の豊かな自然を背景とした営みである。

返還後約40年が経過し、島や街並みの景観について、問題点やその対策を講じていこうとする村や住民の動きが出てきつつあるなかで、小笠原の街並み景観の創造にとって何がポイントとなっていくのか、以下に記す。

(1) 重点的に二見港周辺の景観形成を行う

おがさわら丸やははじ丸、あるいはレジャー船の入出港の際に見る二見湾沿岸の景観は、観光地小笠原を印象付ける風景である。このため、海上からの景観の創出や改善等の景観対策は、効果の早期発現を目指し重点的に取り組むべき課題である。

二見港周辺の景観対策においては、施設や建築物での実施が考えられるが、公共、民間の施設や建築物など対象は様々である。なかでも公共施設は、その数が多く、規模や存在感も民間施設を上回るため、景観の印象付けの影響力は大きいものと考えられる。

したがって、公共施設の景観対策を急ぐことが、二見港周辺の景観改善の効果発現への近道でもある。また、そうした行動が景観を考えていく上での啓発として、住民や事業者への強いメッセージにもなると思われる。

(2) 公共施設における景観ルールをつくる

小笠原村は、平成17年度に「小笠原まちなみ景観ガイドライン」を公表し、村民、島内事業者などがそれを基に自主的に街並み景観づくりを実践していくよう働きかけている。

一方、行政などが設置する公共施設においては、基本的に各事業部署等がその責任において小笠原景観への配慮あるいは自然公園法に基づく対策を講じており、その内容は他者に対して事業実施段階において、ようやく全容を現してくるといった状況である。

このため、今後、公共施設においては、景観法及び都景観条例の規定の適用のみならず、計画段階でその施設の景観対策がどのようなものであるかを把握、調整、評価できる仕組みの構築、あるいは、景観対策の対象事項や程度を示した指標、水準などの設定等を行っていく必要がある。

(3) 民間施設における景観対策

民間施設における景観対策は、努力目標としての前述の「街並み景観ガイドライン」が少しずつ

住民に受け入れられ、ゆっくりではあるが効果をあげている。しかし、この「街並み景観ガイドライン」には法的根拠は無く、結果として、所有者や建築主等の考え方に委ねられることになる。

市街地の中心や港など沿岸などに低・未利用の国有地等が点在し、他にも潜在的開発用地も多い。当地の今後の動向次第では、街並み景観に悪影響をもたらす事案が持ち込まれることも念頭におく必要がある。このため、上述の公共施設などにおける景観の先導的な活動とともに、景観法や東京都景観条例等による規制、誘導策の整備が重要である。

(4) 街並み景観形成の着目点を整理する

小笠原の自然景観は、自然公園法により担保されている。

一方、このガイドラインの対象である街並みの景観については、まちづくりの視点と観光地としての景観への配慮といった視点から考えた場合、背景に海や山をおいた街並みや、逆に海や山から見た街並み、あるいは観光の活動の拠点として見た街中など、自然と街並みが融合するような景観に着目すべきであろう。

しかし、このような街並み景観は、島中どこからでも観光客などの目に飛び込んでいくというものではない。また、どこから見ても問題のない街並み景観を形成していくというのも無理がある。効果的に、景観の形成、改善を行っていくためには観光客などが多く訪れる場所からの景観を議論の対象とすべきであろう。この観点からすると、父島では

おがさわら丸から街並みを見渡す二見湾海上
清瀬・奥村・屏風谷・二見湾を一望できる都立大神山公園東側
西町東町を一望できる大根山墓地および都立大神山公園西側
まちの表情を見渡すことのできる都道お祭り広場前三叉路
街中の賑わいを体感する東町村道
街並みと山、海、空が一体となる三角広場前
海洋観光の拠点となるトビウオ棧橋前
奥村を一望できる奥村都住前
産業系施設が集まる第1トンネル前
峡谷景色の屏風谷
小港海岸へのアプローチである園地

などから見た景観が対象としてあげられる。

続いて母島では、

ははじ丸から街を望む沖港
沖港から乳房山までを望む鮫ヶ崎
憩いの場、前浜周辺
小中学校前

元地を一望できる剣先山 (~ は別添資料参照)

などからの景観が候補として考えられる。

小笠原景観を考えていく上では、このような眺望点から見た範囲での課題、例えば、定めるべき視界の範囲に入る施設の色彩、高さ、意匠、緑被率などを抽出し、対策案の検討、指標化などを行っていくことが必要である。

(別添資料)

おがさわら丸から街並を見渡す二見湾海上



清瀬・奥村・屏風谷・二見湾を一望できる都立大神山公園東側



西町東町を一望できる大根山墓地および都立大神山公園西側



まちの表情を見渡すことのできる都道お祭り広場前三叉路



街中の賑わいを体感する東町村道



街並みと山、海、空が一体となる三角広場前



海洋観光の拠点となるトビウオ栈橋前



奥村を一望できる奥村都住前



産業系施設が集まる第1トンネル前



峡谷景色の屏風谷



小港海岸へのアプローチである園地



ははじま丸から街を望む沖港



沖港から乳房山までを望む鮫ヶ崎

憩いの場、前浜周辺



小中学校前



元地を一望できる剣先山

